



RENKEI

第25号 ACP特集

発行元

松江市在宅医療・介護連携支援センター

TEL : (0852) 61-3741 FAX : (0852) 21-5377

メールアドレス : renkei@shakyou-matsue.jp

住所 : 〒690-0852 島根県松江市千鳥町70番地 松江総合福祉センター1階 社会福祉法人松江市社会福祉協議会

ホームページもご活用下さい ▶▶▶

松江市在宅医療介護

検索

まつえアドバンス・ケア・プランニング 普及・啓発推進協議会 総会・研修会

令和5年8月31日(木) まつえアドバンス・ケア・プランニング普及・啓発推進協議会総会・研修会が開催されました。

《 総 会 》

昨年度の活動報告・今年度の活動計画についての承認と、新加入団体の紹介がありました。今年度から、松江市歯科医師会・松江市薬剤師会・しまねリハビリテーションネットワークの3団体が新たに参加しました。新加入団体のみなさんと一緒に、さらにACPの普及・啓発に取り組んでいければと思います。

《 研修会 》

今年度から協議会委員が、ACPに取り組む3つのグループに分かれて、普及・啓発活動を行っていきます。

研修会では、

①元気な頃 ②病気になった時 ③終末期 それぞれの時期にある住民のみなさんに対し、ACPを知ってもらうために、グループワークにて、普及・啓発活動について検討しました。



医師・病院職員・地域の医療介護職・行政・社協等の多職種でACPについて話し合いをしました!!



ACPのチラシを作ったらどうか?

終活支援ノートを普及・啓発するためには、どうしたらいいかな?



日々、ACPに取り組む中での困りごとや、住民にどのようにACPについて普及・啓発を行うといいのか等について、話し合いを行いました。どのグループも、時間が足りなくなるほど、話が盛り上がりました。この研修会で出た意見をもとに、今後、協議会活動に取り組んでいきたいと思っています。

アドバンス・ケア・プランニング(ACP)市民公開講座

～考えてみませんか？ あなたはどこで、どう生き、どう最期をむかえたい？～

令和5年12月2日(土) まつえアドバンス・ケア・プランニング普及・啓発推進協議会／主催：市民公開講座を開催しました。当日は、地域住民79名とスタッフ25名合わせて、100人あまりの皆様とACPについて考えることが出来ました。当日の様子をお伝えします！！



松嶋 永治 会長
(松江市医師会副会長) 挨拶

元気な時にも、医療や介護が必要となった時にも、本人の「どこでどう生きたいか、どういう医療や介護を受けたいか、最期をむかえたいか」といった意向に寄り添い、住み慣れた松江市で住み続けていただくために、ACPは有用な方法と考えられます。本日は、市民公開講座を通じて、市民の皆さまにACPについて知っていただければと思います。

映画上映会

「うちげでいきたい」映画の舞台とロケ地は鳥取県大山町。住み慣れた自宅で最期を迎えたいという末期がんを告知された高齢の祖母とそれを支えようとする家族の物語を鑑賞しました。



映画「うちげでいきたい」ポスター／チラシ

孫先生ご講演会

映画の監督で医師の孫大輔先生より、『映画「うちげでいきたい」から考える看取りと家族のかたち』をテーマにお話をいただきました。

孫先生からは、在宅看取りを可能にする3つのこととして、①本人の意思表示 ②訪問診療サービス ③家族の協力についてのお話や、最期まで安心して暮らせる地域作りには、お互いの顔が見える関係や相手に寄り添うことが大切ということ等についてお話をいただきました。



孫 大輔 先生（鳥取大学医学部地域医療学講座 講師）

パネルディスカッション

松江市内で働く医師・看護師・ケアマネジャーと孫先生で、もしもの時のこと、在宅看取りについて、意見交換をしました。

- 普段から、かかりつけ医を持って、色々相談ができる環境を整えておきましょう。

伊藤 健一 医師（松江市医師会副会長）

- 『最期まで家で過ごせてよかったね』と思ってもらえるような看護を目指しています。

山城 浩子 看護師（島根県訪問看護ステーション協会松江支部副支部長）

- ケアマネジャーは調整役であることから、それぞれの思いを『繋いでいく』ことを大切にしています。

森脇 あゆみ 介護支援専門員（松江地域介護支援専門員協会副会長）



（右）座長 岡田 昌治 さん
（松江地域介護支援専門員協会会長）

質疑応答の一部を紹介

質疑応答も大変
盛り上がりました!!



Q. 孫先生のお話の中で出てきた地域では、在宅看取り率が50%以上と言われていましたが、その理由は、地域の体制が整っているからなのでしょうか。

A. (孫先生) 人口5,000人で、お互いの顔が見える関係性の地域で、診療所の医師が熱心に在宅医療や在宅看取りなどの地域まるごとケアを実践されています。専門職だけでなく、地域の商店街など、一般の方からの協力も大切にしているところです。



Q. 私は遠方にいた95歳の祖母を看取りました。遠方にいながら家族として何かできることはないでしょうか。

A. (伊藤先生) ご家族との話は大事です。話し合いの場を多く持たせてもらいたいと思っています。

(山城看護師) ケアを担う専門職とのコミュニケーションが大事です。リモートや近くの家族と連絡を取り合うなど、情報共有が大切だと感じています。

(森脇ケアマネ) 遠方の家族の気持ちも大切にしなければいけないと感じます。こういった方々がいることを考慮しながら関わっていきたいです。

参加者からいただいた感想の一部を紹介

映画を見て、死は日常生活の一部で当たり前のことであり、決して特別なことではないんだと思いました。

家族と人生について、なかなか話せていませんが、特別なことではなく、普段の会話のなかで、話せていたらと思いました。

家族など身近なところではACPを知らない人もたくさんいると思うので、自分がどんな人生を送りたいか知るきっかけになることを伝えていきたいです。

各団体のACPの取り組み

松江地域介護支援専門員協会の活動

5月18日の松江地域介護支援専門員協会役員会にて、ACP協議会委員が、松江地域介護支援専門員協会役員のみなさまに対して、終活支援ノートの勉強会を行いました。

ケアマネ
の声

- 終活支援ノートを使って利用者さんと話をしています
- 身寄りのない利用者さんと先日、このノートを使って話をしました
- 10冊もらって帰って施設の利用者さんと話をします



利用者さんの支援に、
このノートをどのよう
に使うとよいか...



松江圏域老人福祉施設協議会の活動

6月7日の松江圏域老人福祉施設協議会の総会にて、ACP協議会武部副会長、杉谷委員、石原委員、出羽委員が、松江圏域老人福祉施設協議会のメンバーに対し、終活支援ノートの共有を行いました。老人福祉施設では、終活支援ノートを使って利用者さんに関わっている施設もあり、それぞれの方法でACPに取り組まれています。



松江赤十字病院の活動

10月28日に松江赤十字病院で第17回地域医療従事者スキルアップセミナーが開催され、86名の方が参加されました。テーマは「ACP(人生会議)について考えてみませんか」。セミナー第一部では、ACP協議会武部副会長が、協議会の活動について発表され、第2部では、松江赤十字病院 副院長 真鍋医師(当協議会副会長)から「ACPのはじめかた」についてのご講演、松江赤十字病院 老人看護専門看護師 内部看護師(当協議会委員)より、「事例を通した意思決定支援」についてのご講演がありました。



松江生協病院の活動

11月30日の「人生会議(いい看取りの日)」に松江生協病院では、「2023年度高齢者施設懇談会」がハイブリット開催で開かれました。メインテーマは「終末期における意思決定支援」で、90名余りの医療・介護の専門職の方々の参加がありました。

当センターからの「松江市のACPの取り組み～まつえACP協議会活動報告」と、施設・病院と協働して行った意思決定支援について、病院看護師→MSW→養護老人ホーム看護師とリレー形式で、事例報告がありました。



Information

訪問看護師、介護支援専門員についての動画をアップしました！

訪問看護師や、介護支援専門員について、医療・介護関係者のみなさまや住民のみなさまに広く知っていただくために、それぞれの専門職団体のみなさまが動画を作っています。当センターのホームページにも掲載いたしましたので、是非ご覧ください。

アクセス方法：松江市在宅医療・介護連携支援センター > 訪問看護師 介護支援専門員 動画・DVD